

Miyako Kitakamisanchi Museum of Folklore

宮古市北上山地民俗資料館

資料館 だより

No.20

2014年3月20日発行

岩手県宮古市川井2-187-1 (Tel.0193-76-2167)

<http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp/>

館務実習生の受け入れ 2013.9.25～9.28

学芸員の資格取得を目指す岩手大学人文社会科学部の実習生15名が館務実習を行いました。実習生は小国分館の展示パネル作成や展示作業、聞き取り調査などの館内実務のほか、民俗資料や地域文化への理解を深めるため、「藁ぞうり作り」の体験や地域の神社や水車小屋の見学も行いました。次に実習生の感想を一部抜粋して紹介します。



聞き取り調査の様子（協力：菊地務さん）

国際文化専攻 鈴木野乃花さん 「古い知識や文化を永く1人で持ち続けることは命ある限り不可能だ。それを伝承し続けていこうと活動する方々がいて、受け継ごうとする若者がいて初めて文化や知識が永く生き続けることができる。話をお聞きし、見て、触って、感じる事が地域を深く知るための重要な過程となることを改めて感じた。」



パネル製作の様子

国際文化専攻 伊藤百花さん 「藁ぞうり作りはもちろん初めてで、縄を巻くということも初めてだった。実際自分の手では全く上手くできず、手取り足取り丁寧に教えてもらい何とか形になったと思う。売っている物しか履いたことがないので、家で履き心地を確かめたい。昔はこうやって身の周りの様々なものを自分で作り、補強しながら長く大切にモノを使っていたのだろうと改めて考えさせられた。」



「カヤ下げ」の見学（協力：湯澤武さん、湯澤孝さん、荒田忠一さん）

環境科学専攻 眞木満帆さん 「小国地区の早池峰神社や水車の見学をして、歴史を写真等展示で知り、地域の方に話を聞き、歩き回り体験することで守るべき文化について学ぶことができた。藁ぞうり作りの体験やカヤ下げを見ることができ、生きた文化の体験として大変貴重な経験をさせて頂いた。先人の知恵に従うことの大事さが身に染みたうえに、文化を伝えていくことは大事だと改めて感じた。」

岩手大の実習生は、開館準備の資料整理に協力いただいたことをきっかけに受け入れ、19回目となりました。他にも大学から依頼があった場合、宮古管内出身の学生を受け入れています。



早池峰神社の見学（小国地区関根）

完成したわら草履を持って記念写真
わら草履作り講師：左から荒田忠一さん、湯澤孝さん、湯澤武さん、菊地務さん

有形民俗資料の体験的活用について

当館では、常設展で「山里のくらしや仕事の様子」を有形民俗資料の展示により紹介していますが、新たに「技術の伝承」をテーマに、昔の技術で小品を製作する講座や、昔の道具を手にとって観察したり、実際に動かしてみたりする体験学習事業を計画しています。特に体験学習に用いる資料は、所蔵資料や体験用に新たに収集したもので、体験は地域の皆さんにご協力いただきながら、職員の立会いのもとに行います。また、経験者による実演も計画していて、これらの試みによって、地域の生活文化をより深く理解してもらおうと思っています。

12月6日には体験学習に協力するボランティア育成を目的とした学習会を開催しました。講師は岩手大学人文社会科学部博物館学講師の名久井文明さんで、これから当館が行う有形民俗資料の体験的活用について、その方法や意義を具体的な事例をまじえてお話いただきました。またこの日、当館で行われる体験学習に協力しながら地域の生活文化や伝統的技術を継承していくことを目的とした「小国分館友の会」(会長 湯澤武さん)が小国、江繋地区の方々を中心に結成されました。当館では、これまでも聞き取り調査や体験学習などで地域の皆さんのご協力をいただけてきました。引き続き地域の皆さんのご協力を得ながら、有形民俗資料についてはもちろん、年中行事や郷土食などもあわせて、地域の生活文化を伝承していきたい考えです。

小品製作講座や体験学習事業は本館や隣接する川井生涯学習センターを会場に実施し、期日などは、ホームページでお知らせいたします。また、小国分館で所蔵する有形民俗資料について、詳細は当館までお問い合わせください。



12月6日に開催された学習会の様子

古文書解読講座

2014年3月2日、9日、16日

「古文書解読の基礎知識」、「宮古代官所と村政」などを学ぶ古文書解読講座を開催しました。市史編さん室の假屋主査を講師に、9名が受講しました。受講生からは、「皆さんと集まったの講座が楽しみ」、「次回もまた参加したい」、「宮古地域の古文書講座や歴史講座なども充実して開催してほしい」などの感想が寄せられました。

古文書解読講座の様子

「昔の技術で小物作りⅠ」

1. 「すご羅み台」でコースター作り (難易度 a)

定員:10名、材料費: 円、製作時間:1時間程度、材料:ヒバ樹皮、布、たこ糸など

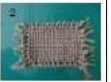
内容:[すご羅み台]にたこ糸などの織み材を固定し、ヒバ皮を織んでコースターを作る。



2. 「平織り」で壁掛け作り (織りのメカニズムを知ろう) (難易度 a)

定員:10名、材料費: 円、製作時間:1時間程度、材料:麻紐など

内容:織織り機を使わずに、たて糸を1本おきにと下させてよこ糸を通し、「織り」のメカニズムを知る。



3. 「こしき」の織み方でコースター作り (難易度 b)

定員:5名、材料費: 円、製作時間:1時間半~2時間程度、材料:麻紐など

内容:昔はわら織を織いながら織み進めたが、麻紐で織み方を体験する。



4. クルミの樹皮で壁掛け作り (電子約) (難易度 b)

定員:5名、材料費: 円、製作時間:1時間~1時間半程度、材料:クルミの樹皮

内容:平織り(縦材と横材を交互に織む)の技法で15cm角ほどの壁掛けを作る。



5. クルミやヒバの樹皮で小物入れ作り (電子約) (難易度 b)

定員:5名、材料費: 円、製作時間:1時間~1時間半程度、材料:ヒバの樹皮

内容:平織り(縦材と横材を交互に織む)の技法で15cm角ほどの小物入れかごを作る。



6. 「えんつこ」の底の作り方でコースター作り (電子約) (難易度 c)

定員:5名、材料費: 円、製作時間:2時間程度、材料:イグサなど

内容:[えんつこ]の底部を織む技法で直径10cmほどの円形のコースターを作る。



7. ミニえんつこ (小物入れ作り) (電子約) (難易度 c)

定員:5名、材料費: 円、製作時間:3時間程度、材料:イグサなど

内容:[えんつこ]を織む技法で底部が10cm、高さが5cmほどの小物入れかごを作る。



難易度・・・a 簡単で1時間程度、b 比較的簡単だが、時間がかかる、c 難しく、時間もかかる

当館で実施する小品製作講座の内容
 ※定員や、事前に準備が必要なものもありますので、詳細はお問い合わせください。



小国分館の体験用資料

小国分館で所蔵する有形民俗資料の紹介 (分類テーマごと)

- ①畜産・農耕
- ②食生活・住生活
- ③さまざまな山仕事
- ④炭を焼く・木材加工
- ⑤樹皮、わら細工
- ⑥繊維の採集と加工
- ⑦川漁の道具
- ⑧戦時中のくらし
- ⑨宮古街道
- ⑩川井地域の郷土芸能と年中行事



第17回企画展

10月26日(土)～12月1日(日)

「山村の衣生活～明治・大正・昭和～」

昨年度の企画展では、厳しい自然環境から体を守り、日々の生活を支え続けたアサや木綿の生地で作られた仕事着を紹介しました。今年度は「とっとき」の衣服、洋服、子どもの衣類、花嫁衣裳など、昨年度に引き続き衣類を展示し、当時の衣生活の様子を紹介しました。「とっとき」の衣服は、お祭りなどの地域行事、子どもの学校行事、集落の中心部への買い物に行くときなどに着る体裁の良い外出着をさし、着古すと「仕事着」におろされるというものでした。また、現在80代の方が若い頃に畑仕事や山仕事で着用していたのは、ジャンパーやズボンなどの「服」だったことなどもわかりました。

展示にあたって行った聞き取り調査では、若い頃に着て大切にしまっておいた洋服を見せていただいたほか、[角巻]を買うために「炭背負い」をして現金を稼いだり、[オーバー]が欲しくて羊毛を紡いで糸を準備したりした苦労や、嫁入りのときに母親が糸取をして仕立ててもらった[オーバー]を贈られた思い出や、地域の娘さんたちのために協力合せて花嫁衣裳を準備したエピソードなどをお聞きました。衣類を手作りしていた時代や、着たいものを思うように手に入れることができなかった時代には、家族や自分が身につけるものを準備するのに大変な苦労があったことがわかり、身につける人はその苦労や思いがわかっているからこそ愛着を感じ、大切に残しておきたいと思うのだと感じました。

小企画展

7月21日(日)～9月1日(日)

「記憶にのこる戦時中の暮らし」

昭和12(1937)年頃から昭和20(1945)年の終戦直後の様子について、[国民服]、[警防団外套]、[復員時軍服]や、戦地で身につけていた[巻き脚絆]や[水筒]などを展示し、戦時中のことを覚えておられる方々からの聞き取り調査でわかったことを紹介しました。聞き取り調査では、戦地での極限状態の経験や、大空襲直後のとても信じてもらえないような惨状や、家族の無事を祈る気持ちをお聞きし、当時のことを話したいと思われる方のお話をしっかり伺い、記録し、後世に伝えなくてはならないと感じました。

体験学習や昔の再現記録から ～ご協力ありがとうございました～

●[炭すご]作りでは、カヤ刈り、カヤ下げなど一連の作業を再現いただき、作業の一部を小国小学校の子どもたちが体験したり、岩手大の実習生が見学したりしました。シノダケの[手もっこ]作りも記録させていただきました。



刈り取ったカヤを「カヤしま」にして乾燥させる。



[炭すご]を編む縄をなう。



[すご編み台]で[炭すご]を編む。



シノダケを編んで[手もっこ]を作る。

●年中行事「ウマっこつなぎ」が十数年ぶりに復活しました。



ワラで「ウマっこ」を作る。



口にマメの葉と「マメしとぎ」をくわえさせる。



「ウマっこ」を蒼前神社に供える。

●小企画の展覧連事業「戦時中のくらしを知ろう」では、川内地区の佐々木富治さんから体験談をお聞きしたり、当時使われていた道具を使ってみるなどの体験もしました。



[かで切り]でダイコンを切る体験。



銃弾痕の残る閉伊川鉄橋の見学



[巻き脚絆]の巻き方や、戦時中のくらしの様子についてお聞きました。

今年度の入館者数(3月16日現在)

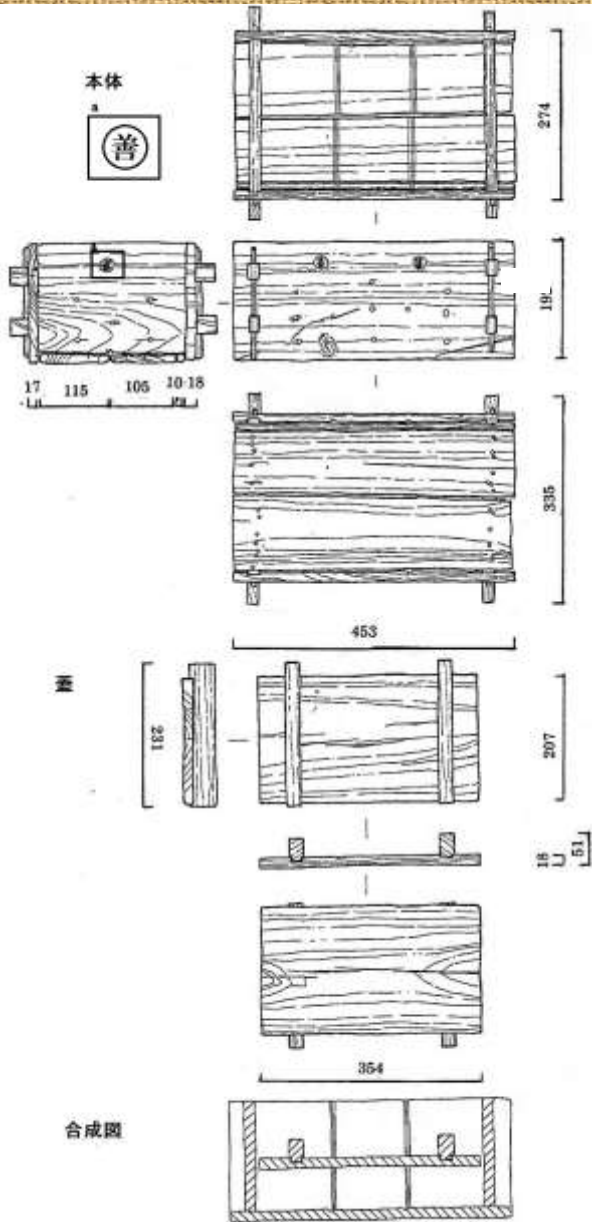
(人)

一般	高校・学生	小・中学生	団体	免除・公用一般	免除・公用高校・学生	免除・公用小・中学生	合計
324	7	7	137	294	29	73	871

来館者の感想(メッセージノートより)

○多くの子供たちに見せてあげたい。昔の人たちの生活のあり方を知ってもらいたいです。(山田町の方)

○かつて日常的に行っていた技術が今の私たちには全くできない「技」になり、保存の重要性を強く感じます。(紫波町の方)



資料名 豆腐箱 (No.2415)
 寄贈者 高森清志さん
 使用方法 [庭釜]でダイズを煮て豆乳にしたものに「にがり」を入れる。それを[豆腐袋]に



入れ、落とし蓋の役割の[蓋]の上から重石をのせておくと水分が抜け、約1時間ほど置くと豆腐が出来上がる。

備考 箱の穴から水が出るため、[半切り桶]の上で行う。箱の大きさは各家によって多少の違いがある。

話者 三浦嘉久さん、中村ナツさん

作図者 立花 瞳

実測図とは

有形民俗資料を正確に計測し図面化して記録したもので、素材、構造、製作技術、外形などの情報を伝達することができます。当館で実測図製作の指導をいただいている名久井芳枝先生は次の3つの役割について述べておられます。

記録保存資料(未来への情報伝達)

啓蒙資料(一般の人々への情報伝達)

学術資料(研究者への情報伝達)

作図者がじっくりと観察し、丁寧に仕上げられた実測図は、当館の記録として蓄積されるだけではなく、他地域や未来へ向けた情報発信の手段ともなります。作図作業は地道で労力を必要としますが、今後も当館では地域の伝統文化を記録する実測図作製を続けてまいりたいと考えています。

ご協力ありがとうございました!

- 資料寄贈** (平成二十五年二月〜平成二十六年二月)
- 荒田ヤヨ工様 荒田忠一様 小田島康廣様 小向ユミ様
 - 菊地務様 佐々木アキ様 佐々木富治様 下川治子様
 - 瀬田マサ様 高屋喜多男様 立花義光様 中里久美江様
 - 仲正路康廣様 名久井文明様 名久井芳枝様 左沢長吉様
 - 古館たみ様 真館由巳様 道又邦彦様 山崎シゲ様
 - 八木勇太様 湯澤孝様 湯澤武様 湯澤キ又子様
 - 江繋郷土芸能保存会様 川井産業振興課様 旧小国相撲協会様
- 聞き取り調査協力** (平成二十五年四月〜平成二十六年二月)
- 荒田ヤヨ工様 荒田忠一様 黒澤サヨ様 小向ユミ様
 - 菊地務様 桜野ミサヲ様 佐々木アキ様 佐々木富治様
 - 清水幸一様 鈴木トシ様 高森清志様 立花リサ様
 - 館向セツ様 中里久美江様 中村ナツ様 左沢長吉様
 - 左沢モヨ子様 古館たみ様 三浦大助様 八木勇太様
 - 湯澤キ又子様



[豆腐袋]から豆乳を絞る様子 行スト:立花瞳

仕上げることが出来て良かったです。そして木材特有の質感をどのように表現するのか、色々な技法を教わり、無事に仕上げることが出来て良かったです。

実測図を描いて

初めて目にした豆腐箱。蓋も付いていて、最初は何に使う道具なのか分かりませんでした。蓋を手にとってみると、裏側に無数の傷があり、それが包丁の傷だと知り、豆腐を切り分けるときそのまま板にもなる事に驚きました。難しかった所は、材質の表現と真上から見た図です。立体を平面的に置き換えて描く事が慣れないうちは大変でした。そして木材特有の質感をどのように表現するのか、色々な技法を教わり、無事に仕上げることが出来て良かったです。

立花 瞳